

日韓併合始末

第一章 發端

明治四十三年四月參謀長會議ニ列セムカ爲上京中ナリシ韓國駐劄軍參謀長明石少將ハ會議ヲ終ルモ尙東京ニ止リテ未タ歸龍ノ途ニ上ラス巷間恰モ統監ノ交迭並ニ曩ニ一進會ニ依リ一タヒ唱導セラレタル韓國併合ノ事實トシテ現出セムコトヲ説ケリ當時流布セラレタル風説ヲ概括スレハ左ノ如シ

- 一、曾根統監病氣ノ爲統監ノ交迭アリ之カ後任者ハ陸軍大臣寺内大將ナリ
- 二、寺内大將統監トナルヤ日韓ノ併合ハ斷行セララルヘシ
- 三、明石少將ノ東京ニ滞在セルハ新統監ノ帷幄ニ參與シ韓國併合ノ畫策ニ與ル

モノナリ

斯ノ如ク風説紛々タルノ間羅南ニ駐屯セル騎兵第二聯隊本部及一中隊ハ龍山ニ招致セララルコトトナリ茲ニ韓國併合準備ノ第一歩ヲ開始セララルルニ至レリ

第二章 軍隊ノ集中

第一節 騎兵聯隊ノ招致

1883

五月二十四日軍司令部ヨリ在羅南騎兵第二聯隊本部並一中隊ヲ龍山ニ招致スヘキ内命ニ接シ同日同隊ニ出發準備ヲナサシム

五月二十八日騎兵聯隊ノ招致ニ關スル軍命令ヲ受領シ直ニ同聯隊ニ龍山ニ來ルヘキコトヲ命ス

聯隊本部及第二中隊ハ六月三日清津ニテ乘船シ五日釜山ニ著シ七日午前八時二十八分龍山ニ到着セリ其ノ人馬數左ノ如シ

人、藤繩騎兵少佐以下 九七

馬、 一〇六

抑モ騎兵聯隊ヲ龍山ニ招致セラレタル所以ノモノハ併合ノ爲威力ヲ要スルコトヲ豫期セルカ爲ナルヤ明ナリ而シテ此ノ目的ノ爲騎兵ハ實ニ適當ナル兵種ナリシナリ何トナレハ未開ノ人民ヲ鎮撫セムカ爲ニハ實力ヲ有スル歩兵ヨリモ反テ外觀威嚴ヲ存スル騎兵ヲ必要トスレハナリ

騎兵聯隊ノ招致ハ實ニ秘密ノ裡ニ實施セラレタリ左ニ之カ事實ヲ示サム

一、聯隊ノ招致決定スルヤ之ヲ收容スヘキ位置研究セラレタリ始メ人員ハ之ヲ

京城憲兵隊司令部内ニ馬ハ同隊前ノ空地ニ建築スル假厩舎ニ收容セムトセ

リ而シテ厩舎ノ建築ニ當リテハ憲兵隊ノ新馬ヲ収容スルモノナリト揚言シ
人民ヲシテ騎兵隊ノ招致ハ日韓併合ノ前提ナルコトヲ察知セサラシムト
セリ後此ノ位置ハ改正セラレ聯隊ハ全部龍山騎兵營内ニ収容セラルルニ至
レリ

二、聯隊ノ羅南ヲ出發スルヤ聯隊長ハ單ニ同地衛戍司令官タル齋藤少將ニノミ
其ノ龍山ニ招致セラレタルコトヲ語り告別セルノミ其ノ他ノ歩、砲兵聯隊
長ニハ一ノ挨拶タモナサス清津ニ行軍ヲ行フト稱シテ羅南ヲ出發セリ

第二節 統監及軍參謀長ノ交迭

五月三十日統監ノ交迭事實トシテ現出シ左ノ如ク發表セララル

兼任統監 陸軍大臣兼馬政長官陸軍大將正三位勳一等功一級子爵

寺 内 正 毅

任副統監

從三位勳一等 山 縣 伊 三 郎

越テ六月十五日軍參謀長明石少將ハ韓國駐劄憲兵隊司令官ニ轉補シ同司令官タリ
シ榑原少將代テ軍參謀長タリ

六月二十九日統監府警察官署ノ官制改正セラレ韓國内ニ於ケル警務機關ヲ統一セ

ラレタリ明石少將ハ警務総監トシテ之カ長タリ

第三節 歩兵隊ノ招致

騎兵聯隊招致後ニ於ケル龍山ノ兵數ハ歩兵五中隊騎兵二中隊砲、工兵各一中隊ニシテ此ノ兵力ハ有事ノ日警備ノ任ニ服スル爲未タ十分ナラサルモノアリ
京城及龍山警備ノ爲龍山ノ兵力ヲ歩兵十三箇中隊ニ増加セムトスルノ説アリシカ
後ニ至リ臨時韓國派遣隊ヨリ歩兵六箇中隊ヲ招致シ第二師團ノ兵力ヲ歩兵九箇中隊トナシ合計歩兵十五箇中隊ヲ集ムルニ決セリ

師團内ニ於テ何レノ聯隊ヨリ上述ノ兵力ヲ集ムヘキカニ就テハ當時師團ノ配置ヲ顧慮スルノ外千載一遇ノ併合ニ際シ各聯隊ヲ均シク之ニ參與セシメムトスル師團長ノ意圖ニ基キ左ノ如ク兵力ヲ集中スルニ決セリ

歩兵第六十五聯隊ヨリ 聯隊本部及大隊長ノ指揮スル三箇中隊

歩兵第二十九、第四、第三十二聯隊ヨリ 各大隊長ノ指揮スル二箇中隊

合計 歩兵九箇中隊

之カ爲六月十一日左ノ要旨ノ命令ヲ下ス

成川守備隊ハ一小隊ヲ同地ニ殘置シ主力ヲ以テ平壤ニ至ラシム

瀨川守備隊ハ平壤ニ至ラシメ同地ニハ徳川守備隊ヨリ一小隊ヲ派遣セシム

此ノ配置變更ハ宿舍設備ノ關係ニ依ルモノアリシト雖平壤ニ於ケル兵力ヲ増加シ有事ノ日ニ於テ必要ノ方面ニ出動シ得ル如ク準備セルモノナリ

歩兵第二十九聯隊第三大隊本部ト第十二中隊(開城、延安、白川、長湍ノ守備ニ任ス)第十中隊(朔寧、鐵原ノ守備ニ任ス)ハ爾今歩兵第六十五聯隊長ノ指揮ニ屬シ此ノ部隊ハ近ク歩兵第六十五聯隊第三大隊本部及第五、第十中隊(龍山ニ在リ)ト交代シ龍山ニ至ラシム

在羅南歩兵第四聯隊ノ一大隊(二中隊缺)及歩兵第三十二聯隊ノ大隊本部ト在咸興歩兵二中隊ハ出發ノ準備ヲナサシム此ノ諸隊ハ初清津又ハ西湖津ヨリ釜山ニ船舶輸送セラレ更ニ同地ヨリ龍山迄瀝車輸送セラルル計畫ナリシナリ

六月十三日左ノ軍命令ヲ受領ス

一、軍ハ第二師團及臨時韓國派遣隊ノ一部ヲ以テ黃海、京畿兩道ニ亘リ暴徒ノ討伐ヲ實施セムトス

二、第二師團及臨時韓國派遣隊ハ別紙行動一覽表ニ準據シ討伐ヲ計畫實施スヘ

1887

三、討伐部隊ノ輸送給養其ノ他ニ關スル細件ハ別ニ參謀長ヲシテ通牒セシム
(別紙)

討伐行動一覽表

兵	方	方	面	行動發起地點 (同上時期)	討伐後集合地點 (之ニ達スル時期)	摘要
步兵第四聯隊ノ一大隊(二中隊缺)	元山—金化—京城道ニ沿フ部分	元山	龍山	(六月二十二日)	(七月一日)	清津元山間船舶輸送
步兵第三十二聯隊ノ一大隊(二中隊缺)	元山—馬轉洞—伊川—朔寧—京城道ニ沿フ部分	元山	龍山	(六月二十二日)	(七月一日)	咸與元山間船舶輸送
步兵第二十九聯隊ノ二中隊	黃州載寧海州方面	黃州	平壤	(六月二十二日)	(七月二日)	現守備地ヨリ黃州迄各討伐後汗浦ヨリ平壤迄汽車輸送
步兵第二十九聯隊ノ一大隊(二中隊缺)	延安、海州方面	朔寧 開城	龍山	(六月二十二日)	(七月二日)	

考	備 朔寧開城部隊ノ交代トシテ歩兵第六十五聯隊ヨリ各一中隊ヲ六月十九日迄ニ上記ノ二 地點ニ派遣スルモノトス	臨時派遣隊歩一ノ一 大隊(一中隊缺)	太田、陰城、利 川方面	太 田 龍 山	大 邱 龍 山	大邱龍山間汽車輸送
		臨時派遣隊歩二ノ一 大隊(一中隊缺) (豫備隊)	(六月二十一日)	(六月三十日)	(六月十九日)	(六月二十日)

同日軍參謀長ヨリ討伐隊ノ輸送並給養ニ關シ通牒アリ

六月十六日左ノ命令ヲ下ス當時師團長ハ隨時檢閲ノ爲義州方面ニ出張中ナリ

歩兵第二十九聯隊へ

一、李鎮龍韓貞滿ノ徒ハ滅惡山附近ニ根據ヲ有スルモノノ如ク依然平山海州地
方ヲ橫行ス

二、師團ハ歩兵第二十九聯隊ノ一部ヲ以テ此ノ賊ヲ討伐セムトシ朔寧開城兩守
備隊ハ歩兵第六十五聯隊ノ部隊ヲ以テ六月十九日迄ニ其ノ交代ヲ完了スル

四

1889

筈

三、歩兵第二十九聯隊第三大隊(第九第十一中隊)ハ二十一日現在ノ駐屯地ヲ發シ概テ別紙行動一覽表ニ準據シテ行動シ平山、漏川、柯亭店、濯纓臺ヲ連結セシ線及其ノ以南ノ地方ニ於ケル賊徒ヲ掃蕩シ特ニ廣坪古沙洞附近ヲ搜索スヘシ

四、高橋少佐ノ率ウル第一第七中隊ハ二十一日鐵道輸送ヲ以テ黃州ニ下車シ翌二十二日ヨリ概テ別紙行動一覽表ニ準據シテ行動シ平山、濯纓臺ノ線及其ノ以北ノ賊徒ヲ掃蕩スヘシ

五、服裝ハ軍裝ニシテ成ルヘク輕裝シ各人彈藥五十發携帶口糧一日分並所要ノ衛生材料ヲ携行スヘシ

六、糧秣ハ左ノ地點ニ之ヲ集積ス各討伐隊ハ守備隊所在地ヨリ補給ヲ受ケ能ハサルトキハ該集積地ニ就キ補給ヲ受クヘシ

第三大隊 平山ニ一日半分 金川温井院ニ各半日分

其ノ他 麒麟場文久ニ各一日半分、平山ニ一日分白川洞ニ二日分

集積スヘキ糧秣ノ品種左ノ如シ其ノ定量ハ戰時給與規則細則第一表ノ定量

1890

ヲ基準トス

精米 罐詰肉 搥乾魚肉(半定量) 乾物野菜(半定量)

漬物 調味品 茶

大麥 干草 藁

右ノ外生物及必要ノ品種ハ現地調辨ニ依ルヘシ

七、糧秣運搬ニ要スル運搬具ハ各隊ニ於テ之ヲ調辨シ漚車輸送中ノ給養ハ各隊

ニ於テ之ヲ準備スヘシ

八、本討伐ニ要スル費用ハ師團ニ於テ之ヲ支辨ス該豫算ハ別途ニ前渡請求スヘ

シ

九、在朔寧開城兩守備隊ノ携行スル能ハサル軍需品ハ所要ノ宰領者ヲ附シ開城

ヨリ龍山ニ漚車輸送スヘシ

十、諸隊ノ所在地ハ日々之ヲ報告スヘシ

(別紙)

行動一覽表

月										日	隊
六											
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	號
坡	長	滯	開	白	温	柯	溜	延	白	開城第十二中隊	步兵第二十九聯隊第三大隊(二中隊缺)
				川	井	亭	纓	安	川		
州	滯	在	城	金	助	漏	平	市	兔	安州第一中隊	高橋少佐ノ率ユル隊
				川	浦	川	山	邊	山		
漏	川	退	白	滯	麒	文	興	鳳	黃	平壤第七中隊	
				在	麟	久	水				
川	久	麟	溜	滯	海	新	載	山	州		
				在	州	院	寧				

1892

月	七
二	一
龍	高
山	陽
平	平
	山
壤(汽車輸送)	

(安州第一中隊ハ元熙守備隊タリ六月十一日ノ命令ニ依リ平壤ニ至ル豫定ナリシカ途中安州ニ滞在ヲ命セラレタリ)

歩兵第二十五旅團ノ討伐隊へ

- 一、延起羽、姜基東ノ徒ハ尙暴威ヲ逞フシ依然京畿道ノ北部ニ出沒ス
- 二、師團ハ歩兵第二十五旅團ノ一部ヲ以テ此ノ賊ヲ討伐セムトス
- 三、歩兵第四聯隊第二大隊(第六 第七中隊缺)ハ二十二日元山ヲ出發シ概子別紙行動一覽表ニ準據シテ行動シ抱川附近ノ賊徒ヲ掃蕩スヘシ
- 四、歩兵第三十二聯隊第三大隊長ノ指揮スル第七 第十二中隊ハ二十二日元山ヲ出發シ概子別紙行動一覽表ニ準據シテ行動シ朔寧附近ノ賊徒ヲ掃蕩スヘシ
- 五、服裝ハ軍裝ニシテ成ルヘク輕裝シ各人彈藥(五十)ヲ發携帶口糧一日分並所要ノ衛生材料ヲ携行スヘシ

六、所要糧秣ハ陸軍倉庫ニ於テ六月二十二日迄ニ左ノ地點ニ之ヲ集積ス但シ淮

陽及佳麗州ニ至ル間ニ要スル糧秣ハ在元山倉庫ニ就キ受領携行スヘシ

歩兵第四聯隊ノ爲 淮陽ニ三日分 金化ニ四日分 抱川ニ二日分

歩兵第三十二聯隊ノ爲 佳麗州ニ四日分 朔寧ニ四日分 積城ニ二日分

此ノ糧秣ハ守備隊又ハ其ノ地駐在ノ憲兵之ヲ保管ス各隊ハ其ノ全部ヲ受領

シ殘餘ハ守備隊ニ引繼等適宜處分スヘシ

集積スヘキ糧秣ノ品種左ノ如シ其ノ定量ハ戰時給與規則細則第一表ノ定量

ヲ基準トス

精米 罐詰肉 鹽乾魚肉(半定量) 乾物野菜(半定量)

漬物 調味品 茶

大麥 干草 藁

右ノ外生物及必要ノ品種ハ現地調辨ニ依ルヘシ

七、糧秣運搬ニ要スル運搬具ハ各隊ニ於テ適宜調辨スヘシ

但シ元山ニ於テ要スル韓馬ハ同地守備隊ヲシテ豫メ之カ徵集ノ準備ヲナサ

シム

八、本討伐ニ要スル費用ハ師團ニ於テ之ヲ支辨ス該豫算ハ別途ニ前渡請求スヘシ

九、諸隊ノ所在地ハ日々之ヲ報告スヘシ

(別紙)

行動一覽表

六						月 日	隊 號
二六	二五	二四	二三	二三	二二		
金 城	昌 道 驛	淮 陽	高 山 驛	南 山 驛	元 山		步兵第四聯隊第二大隊(二中隊) 愼
滯 在	佳 麗 州	龍 岩 洞	馬 轉 洞	文 川	元 山		步兵第三十二聯隊第三大隊本部 愼

七

1895

以上歩兵第二十五旅團ノ討伐隊ニ與フル命令ノ要旨ハ六月十四日之ヲ電報シ同時
 ニ清津又ハ西湖津ヨリ元山ニ至ル船舶輸送ニ付指示セラレタリ
 上述討伐ニ關スル命令ハ表面暴徒討伐ノ爲ナルカ如シト雖モ事實ハ併合準備ノ爲
 軍隊ヲ龍山ニ集中スル口實タルニ過キカリシナリ現ニ高橋少佐ノ指揮スル二中隊
 ノ如キハ炎天ノ下ニ鐵道輸送及行軍ノ演習ヲナシタルニ終レリスノ如ク命令ノ形

七 月			月			
三	二	一	三〇	二九	二八	二七
		龍	議	抱	芝	金
		山	政	川	浦	化
		東	府	朔	安	伊
	議	豆	連	寧	峽	川
龍	政	川	川			
山	府					

1896

式ト其ノ内容ト相違セル所アルヲ以テ命令ノ眞意ヲ傳達セムカ爲步兵第二十九聯隊ヨリハ命令受領者ヲ龍山ニ招致シ步兵第二十五旅團ノ爲ニハ太田歩兵中尉ヲ元山ニ特派スルニ至レリ
之ヨリ先キ六月十三日軍司令官ハ討伐ニ關スル命令ヲ下スト共ニ左ノ訓示ヲ發セラル

訓 示

目下統監交迭ノ際ニ於テ日韓兩國民好テ無用ノ推測ヲ逞シ爲ニ流言飛語世上ノ疑惑危懼ヲ招クノ嫌アリ此ノ時ニ際シ突然軍隊ノ行動ヲ起ストキハ特ニ一般ノ視目ヲ引キ或ハ無益ノ質問等ヲ爲スモノ無キヲ保セス軍人タルモノハ宜シク輕卒ナル言動ヲ慎ミカメテ地方ノ人心ヲ沈靜ナラシメサルヘカラサルヲ以テ唯一ニ暴徒討伐ノ命令ヲ遵守セシメ又他意ナキコトヲ表明セシムルコト肝要ナリ下士卒ニ至ル迄此ノ趣旨ヲ休セシメ軍人ノ態度ヲ嚴守セシムヘシ

右訓示ス

同日軍參謀長ヨリ左ノ要旨ノ注意アリ

今回ノ討伐行動ニ就テハ其ノ計畫實施等下士卒ノ音便ニ依リテ内地ニ洩漏シ延

八

1897

テ韓國ノ沈靜ヲ破ルニ至ルカ如キユトナキニ注意スルト共ニ討伐行動中ハ特ニ
衛生ニ注意スルヲ要ス

上述ノ訓示及注意ハ直ニ之ヲ各部隊ニ傳達セラレタリ

六月十七日ヨリ十九日ニ亘ル間ニ於テ歩兵第六十五聯隊第三大隊本部並第五、第
十中隊ハ開城及朔寧守備隊ヲ交代セリ

歩兵第四聯隊ノ討伐隊ハ六月十八日清津ヲ出帆シ歩兵第三十二聯隊ノ討伐隊ハ六
月二十日西湖津ヲ出帆シ共ニ六月二十日元山ニ上陸セリ而シテ此ノ兩隊ノ荷物ハ
釜山ヲ經テ龍山ニ輸送セラル

咸興ヨリ二中隊ヲ龍山ニ招致スルトキハ同地ノ兵力甚シク減少スルヲ以テ江陵、
珍富驛ノ守備隊タリシ第二中隊ヲシテ一小隊ヲ江陵ニ殘置(内一分隊ハ珍富驛ニ)
シ主力ヲ以テ咸興ニ至ラシム此ノ中隊ハ六月二十七日咸興ニ到着セリ

六月二十日臨時韓國派遣隊ニテ編成セル京城臨時派遣隊本部並第二大隊(一中隊
缺)龍山ニ到着シ警備上ニ關スル行動並内務ノ實行ニ關シ師團長ノ指揮ニ屬セラ
ル京城臨時派遣隊トハ六月十三日ノ軍命令ニ依リ龍山ニ集中スヘキ臨時韓國派遣
隊ノ部隊ヲ集合編成シタル名稱ナリ

1898

六月二十一日在平壤歩兵第三旅團司令部ヲ龍山ニ招致ス蓋シ當時歩兵第六十五聯隊長ハ病氣後送中ナリシヲ以テ警備ノ必要ヲ顧慮セラレタルナリ此ノ旅團司令部ハ翌二十二日龍山ニ到着セリ

六月二十一日以來討伐隊ハ各其ノ豫定行動ニ移レリ

同二十二日高山及南山兩驛憲兵分遣所ヨリ派遣セル合同討伐隊タル憲兵上等兵以下十名ハ綠松木(高山驛ノ西南約九里)附近ニ於テ蔡應彦及姜斗弼ノ率ユル八十餘ノ暴徒ト衝突シタルノ報アリ之カ爲歩兵第四聯隊ノ討伐隊ハ牛渡少尉以下三十二名ヲ同地方向ニ派遣シ討伐ヲ實施セシムルニ至レリ

各討伐隊ハ牛渡少尉ノ指揮スルモノヲ除クノ外所命ノ行動ヲ繼續シ將ニ龍山ニ達セムトス會々臨時韓國派遣歩兵第一聯隊ノ討伐隊ニ腸窒扶斯患者ヲ發生シ龍山ノ東南方松坡鎮ニ滞在スルコトナレリ之カ爲時恰モ雨期ニ際セルニ拘ラス討伐隊ノ大部ハ一時京城ノ周圍ニ滞在ヲ命セラルルニ至レリ此ノ滞在ハ一方ニ於テハ統監ノ渡韓尙遲延シ併合ノ交渉直ニ開始セラレタルヲ以テ過早ニ京城附近ニ軍隊ヲ集中スルコトヲ避ケ以テ韓人ヲシテ軍隊ノ集中ヲ知得セシメサラムトノ意味ヲ存セシカ如シ

六月三十日左ノ如ク滞在ヲ命ス

歩兵第二十九聯隊ノ討伐隊 坡州

歩兵第三十二聯隊ノ討伐隊 議政府

此ノ滞在ヲ命スルト同時ニ糧秣其ノ他宿營ニ要スル諸品特ニ蚊張ヲ送附スルノ必要ヲ生スルニ至レリ又滞在部隊ハ日々健康診斷ヲ行ヒ其ノ結果ヲ告報^報セシメタリ此ノ日議政府ニ到着スヘキ歩兵第四聯隊ノ討伐隊ハ之ヲ龍山ニ招致スルコトナリタルカ爲龍山ヨリ特ニ軍醫ヲ同地ニ派遣シ健康診斷ヲ行ハシメタリ此ノ隊ハ七月一日夜ニ入り^テ龍山ニ到着セリ又同隊ヨリ派遣セル牛渡討伐隊ハ七月五日午後十時三十分龍山ニ到着セリ行動中賊情ニ付得ル所ナシ

歩兵第二十九聯隊高橋少佐ノ指揮スル討伐隊ハ所命ノ行動ヲ終リ七月二日平壤ニ歸還セリ

斯ノ如クニシテ軍命令ニ依ル討伐隊ノ半部ハ各所命ノ地ニ到着シ他ノ半部即臨時韓國派遣隊ノ一大隊(一中隊缺)(松坡鎮滞在)歩兵第二十九聯隊ノ討伐隊(坡州滞在)及歩兵第三十二聯隊ノ討伐隊(議政府滞在)ハ京城ノ周圍一乃至二日行程ノ地ニ滞在スルコトナレリ

1900

時恰モ雨期ニシテ各隊カ設備不十分ニシテ且非衛生的ナル韓人部落ニ滞在スルハ會々以テ傳染病發生ノ源因トナルヘク延テ京城ニ於ケル事變ニ使用スヘキ兵力ヲ減殺スルコトナキヲ保スヘカラス現ニ各隊ニ於テ二三ノ發熱患者ヲ發生スルニ至レリ又京城ヲ距ル一二日行程ノ地ニ軍隊ノ駐屯セルコトハ直ニ京城人士ノ知ル所トナルヘキハ又爭フヘカラス加フルニ松坡鎮ニ滞在スル臨時派遣隊ノ病勢ハ漸次減退スルニ至リタルヲ以テ此等滞在部隊ハ龍山ニ招致セラルルニ至レリ而モ尙其ノ龍山ヘノ到着ハ夜半十二時前後ニシテ京城市街及獨立門通ヲ避クヘキコトヲ制限セラレタリ斯クテ討伐隊ハ左ノ如ク龍山ニ到着セリ

臨時韓國派遣隊ノ一大隊(一中隊缺) 七月六日午後十一時二十分

歩兵第三十二聯隊ノ一大隊(二中隊缺) 七月八日午前一時三十分

歩兵第二十九聯隊ノ一大隊(二中隊缺) 七月九日午後十時

歩兵第二十九聯隊ノ討伐隊ハ坡州東南約一里ニ在ル橋梁流失ノ爲一日遅レテ到着セリ

此ヲ以テ併合準備ノ爲ニスル軍隊ノ集中全部結了セリ當時龍山ニ集中セル兵力及職員ハ附表第一、第二ノ如シ

1901

第四節 圖們江沿岸ノ配置變更

六月初旬迄ニ於テ師團守備管區内暴徒ノ情況概テ左ノ如シ

京畿道ノ北部ニハ延起羽、姜斗弼アリ黄海道ノ西部主トシテ鐵道線路以西ニハ

李鎮龍、韓貞滿、金貞安アリ江原、黄海、咸鏡三道ノ境附近ニハ姜基東、蔡應彦

アリ本年四月蔡應彦ハ馬轉洞巡查駐在所ヲ襲ヒテ巡查ヲ斬殺シ續テ六月十三日

ニ至リ暴徒約五十八在仙岩憲兵分遣所ヲ襲ヒ下士以下死傷ヲ生スルニ至レリ此

ニ於テ馬轉洞ニ守備隊ヲ配置シ專ラ暴徒ノ討伐ニ從事シツツアリ

其ノ他圖們江對岸露清領土内ニハ李範允、洪範道、嚴仁燮等ノ首魁アリ時々韓

國內地ニ侵入セムトスルノ風説アリシカ未ダ嘗テ事實トシテ現出セルコトナシ

然レトモ彼等カ併合ノ機ニ乘シ露清領土内ニ在ル韓民ヲ誘惑シ韓國内地ニ侵入

セムコトナキヲ保スヘカラサルヲ以テ之ニ對シ近ク憲兵ヲ増加シ圖們江沿岸ノ

配置ヲ嚴ナラシムルノ計畫アリシト謂フト雖目下直ニ同江沿岸ノ警備ヲ嚴ナラ

シムルノ必要ヲ認ムルニ至レリ

六月十六日左ノ要旨ノ電報命令ヲ發ス此ノ配置變更ハ羅南ニ在ル齋藤少將ノ意見

ヲ參照決定シタルモノトス

在羅南步兵第四聯隊本部及一中隊ヲ會寧ニ増加シ圖們江沿岸ノ配置ヲ左ノ如ク變更スヘシ

慶興ニ一中隊ヲ配置シ(舊一小隊)古邑及新阿山ニ各一小隊ヲ出ス

慶源ニ一中隊ヲ配置シ(舊ナシ)新乾源及訓戎鎮(舊兩地共各一小隊)ニ各一小

隊ヲ出ス

鐘城ニ第一大隊本部及一中隊ヲ配置ス(舊一小隊)

其ノ他穩城ニ一小隊北倉坪、德明及行營ニ一分隊ヲ配置スルコト舊ノ如シ而シテ會寧ノ兵力ハ聯隊本部及二中隊並工兵第二大隊(一中隊缺)ナリ

以上ノ配置ハ六月二十四日ヲ以テ全部結了シ對岸暴徒ニ對スル警戒愈々嚴ナルニ至レリ之ト同時ニ此等各守備ヲ隊連絡スル電話線ノ架設ヲ必要トシ軍ニ要求セリ而シテ軍ハ同地ニ永久電話線ヲ架設セムコトヲ希望シ之ヲ統監府通信管理局ニ交渉セリ

第三章 七月ニ於ケル併合準備

第一節 各司令部ノ連絡

六月三十日在京城統監官邸、大歡亭(軍司令官官邸)憲兵隊司令部、在龍山軍司令